



Safe Work OITA 令和5年度

年末年始無災害運動

実施要領

12月1日 ▶▶▶ 1月15日

1 趣旨

大分県内における労働災害は長期的には減少しているものの、近年は増減を繰り返しつつ、増加傾向にある。令和4年は休業4日以上死傷者は前年から6.0%（74人）増加し、過去10年間で最多となった。

また、令和5年（10月末現在）の休業4日以上の死傷者は前年同期比で2.5%（24人）の増加となっている。死亡者は11人と前年同期比で4人の増加となり、労働災害の増加に歯止めがかからない状況となっている。

業種別で見ると、前年同期比で建設業が7.1%（11人）、運輸交通業が12.6%（11人）、商業が20.2%（25人）の増加となっている。事故の型別では、「転倒」が5.9%（17人）、はさまれ・巻き込まれが10.2%（10人）、「交通事故（道路）」が72.7%（16人）の増加となっている。

こうした状況の中で、特に年末年始は慌ただしい中での大掃除や機械設備の保守点検・再稼働等の作業が多くなるほか、物流等の増加に伴う交通・荷役作業時の災害、積雪や凍結による転倒等の危険が増す。各事業場においては、非定常作業における安全確認の徹底、作業前点検の実施、作業手順や交通ルールの遵守、安全衛生保護具の点検の実施、感染症予防を含めた労働者の健康状態の確認などに全員で取り組むことが一層重要となる。

このような状況を踏まえ、本年度の年末年始無災害運動は

健康と安全で 幸せつなぐ年末年始

を標語として展開することとする。

2 実施期間 令和5年12月1日から
令和6年1月15日まで

3 主唱者 大分労働局

4 実施者 県下各事業場
労働災害防止団体
事業者



5 主唱者の実施事項

- (1) 労働局長による安全パトロール
- (2) 労働災害防止団体、事業者団体、公共工事発注機関に対する文書要請
- (3) 労働災害防止団体等との合同安全パトロール
- (4) ホームページ、報道機関等を通じた周知
- (5) リーフレット、のぼり等の頒布
- (6) 集中的な監督指導、安全パトロール

6 労働災害防止団体等の実施事項

- (1) 本運動の会員事業場への周知、徹底
- (2) 各種労働災害防止用リーフレット、のぼり等の配布
- (3) 安全大会の開催や安全パトロール

7 事業場の実施事項

- (1) 年末年始に実施する事項
 - ① 経営トップによる安全衛生方針の決意表明
 - ② 安全衛生パトロールの実施
 - ③ 機械設備に係る一斉検査及び作業前点検の実施
 - ④ 年末時期の大掃除等を契機とした5Sの徹底、掲示や旗の掲げ替え
 - ⑤ 年始時期の作業再開時の安全確認の徹底
 - ⑥ 年末年始無災害運動用ポスター、のぼり等の掲示
- (2) 年末年始に実施状況を確認する事項
 - ① KY（危険予知）活動を活用した非定常作業における労働災害防止対策の徹底
 - ② 安全保護具・労働衛生保護具、安全標識・表示等の点検と整備・更新
 - ③ 化学物質のリスクアセスメントの実施を含めた化学物質管理の徹底
 - ④ 転倒、墜落・転落、はさまれ・巻き込まれ災害防止や腰痛予防対策の徹底
 - ⑤ 火気の点検、確認など火気管理の徹底
 - ⑥ 交通労働災害防止対策の推進
 - ⑦ 過重労働をしない・させない職場環境づくり
 - ⑧ 健康的な生活習慣（睡眠、食事、運動等）に関する健康指導などの実施
 - ⑨ 感染症拡大防止対策の徹底
 - ⑩ 職場のハラスメント防止につながる取り組みの推進
 - ⑪ 自然災害等に伴う復旧・復興工事等における労働災害防止対策の推進
 - ⑫ 安全衛生旗の掲揚、その他安全衛生意識高揚のための活動の実施



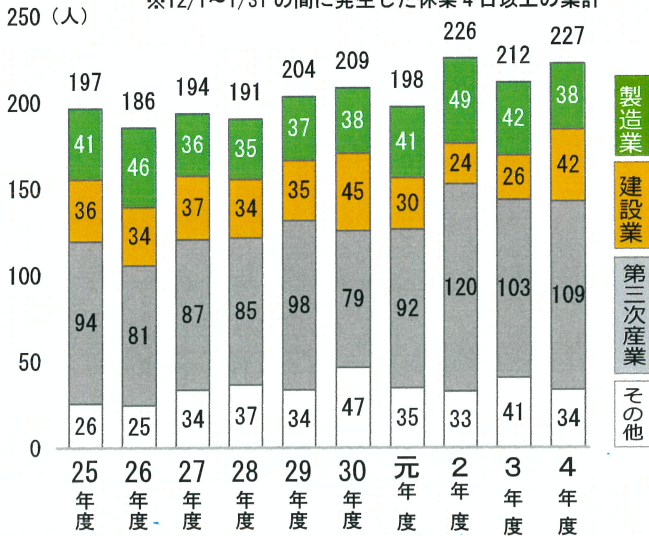
大分県の労働災害発生状況

※出典は労働者死傷病報告及び死亡災害報告。
※新型コロナウイルス罹患者を除く。

過去10年

年末年始の労働災害 | 全産業

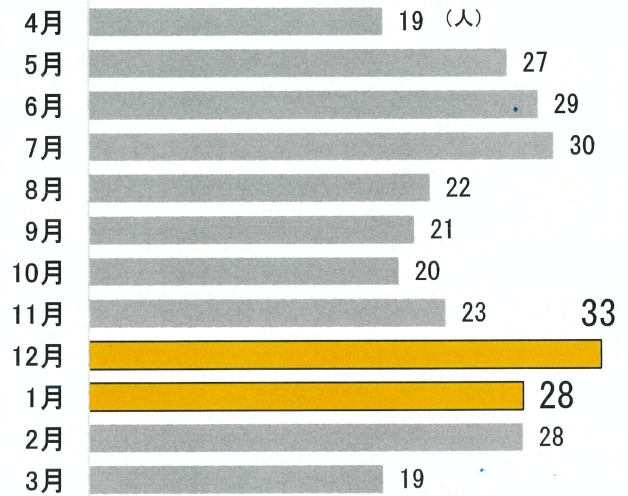
※12/1～1/31の間に発生した休業4日以上の集計



年末年始の死傷者数は、増減を繰り返しながら増加傾向があり、令和4年度は過去10年で最も多く発生しました。

過去20年

月別死亡労働災害 | 全産業



過去20年の年末年始期間中、労働災害により61人が亡くなっています。

12月は1年の中で、最も多くの死亡労働災害が発生しています。

令和5年

死亡労働災害一覧 | 全産業

※令和5年11月8日現在

No.	発 生 月 間 業 種	性 別	事 故 の 型 類		経 験	災 害 発 生 状 況
			起 因	物		
1	3月	男	土工	3年	生コンクリートの運搬に使っていた農業用小型運搬車（最大積載荷重0.5t）の運転席に乗って川床を前進させていたところ、当該運搬車と橋の側面との間に上半身を挟まれたもの。	
	13時台	土木工事業	はさまれ、巻き込まれ	整地・運搬・積込み用機械		
2	4月	男	作業員	15日	業務用乾燥機から布おむつを取り出す作業に従事していたところ、乾燥機の鋼製ふたと乾燥機本体との間に首を挟まれているところを発見されたもの。	
	12時台	その他の製造業	はさまれ、巻き込まれ	乾燥設備		
3	6月	男	作業員	15年	牛（約30頭）を牛舎へ移動させた後、牛舎の床に埋もれた状態で発見されたもの。	
	13時台	畜産業	激突され	その他の環境等		
4	6月	男	作業員	10年	豚の糞を収集・排出するスクルーコンベヤの周辺に堆積した糞を掻き落としていたところ、下半身を巻き込まれたもの。	
	10時台	畜産業	はさまれ、巻き込まれ	コンベア		
5	7月	男	作業員	20年	砂防ダム工事現場で、大雨のため片付け作業をしていたところ、増水した川に流されたもの。	
	15時台	土木工事業	おぼれ	水		
6	7月	男	現場代理人	47年	砂防ダム工事現場で、大雨により増水した川に流された作業員を救出しようとして、流されたもの。	
	15時台	土木工事業	おぼれ	水		
7	7月	男	作業員	2年	土地造成工事現場で作業して帰宅したが、同日夜に救急搬送され、熱中症により死亡したもの。	
	19時台	土木工事業	高温・低温の物との接触	高温・低温環境		
8	8月	男	配達員	13年	原動機付自転車で新聞配達中、電柱に激突して倒れているところを発見されたもの。	
	5時台	小売業	交通事故（道路）	乗用車、バス、バイク		
9	8月	男	作業員	16年	片側1車線の農道の草刈作業中、車道で交通誘導をしていたところ、走行してきた一般車両にはねられたもの。	
	13時台	土木工事業	交通事故（道路）	乗用車、バス、バイク		
10	9月	男	作業員	5年	道路新設工事において、斜面の立木（榎、胸高直径40cm）を伐倒するためにチェーンソーで追い口を作っていたところ、当該立木が裂けて激突したもの。	
	9時台	土木工事業	激突され	立木等		
11	9月	男	作業員	33年	2階建て建物の外階段で、階段の水洗い作業をしていたところ、足を踏み外して階段を転落したもの。	
	13時台	金属製品製造業	墜落、転落	階段、棧橋		